

1 スポーツツーリズムで宿泊数を増やせ 廃校を活用したスポーツタウン構想

千葉県・銚子市 | 千葉銀行

両翼90mの硬式野球対応グラウンド、バスケットボールやバレーボールなど5競技で同時使用可能な体育館、最大152名収容可能な宿泊棟。廃校となった銚子市立銚子西高校は、地元企業、地方自治体、地方銀行の連携のもとスポーツ合宿所「銚子スポーツタウン」として生まれ変わり、スポーツツーリズムの新たな拠点としてオープンした。



銚子スポーツタウン（左から体育館、食堂棟、宿泊施設）

銚子市の概要

【人口】62,889人(2018年2月1日現在)

- ・銚子市は、1933年2月11日に銚子町、本銚子町、西銚子町、豊浦村の3町1村が合併して誕生。
- ・東京から約100km、関東平野の最東端に位置し、北は利根川、東から南は太平洋と、三方を水に囲まれている。
- ・沖を流れる暖流・寒流の影響を受け、夏は涼しく冬は暖かい気候。
- ・全国屈指の水揚げ量(水揚げ量は2017年まで7年連続日本一)を誇る。



銚子市で開催されているサイクルロードレース

地元開催のスポーツイベントが宿泊につながる

「世界灯台100選」にも選ばれた犬吠埼灯台、太平洋を眺めながら走るロードコース。銚子市では、マラソン、トライアスロン、自転車耐久レースなど多くのスポーツイベントが開催されている。「出場者にアンケートすると、そのほとんどが近隣市町村に宿泊していて、市内の宿泊や観光につながっていないんです。人が来てても市内に宿泊施設が不足しているもったいない状況をなんとかできないか。そんな思いから「銚子スポーツタウン」は生まれたんです」(株式会社銚子スポーツタウン 小倉和俊代表取締役)

2014年にスポーツを通じて地域の活性化を目指すNPOを立ち

上げた小倉氏は「いつも課題を見つけては解決することの繰り返しでした」と振り返る。市内にあるサイクルステーション(スポーツサイクルを楽しむ人のための休憩施設)だけでは目立たないからサイクルレースを誘致しよう。レース誘致が難しいので自分たちでレースを主催しよう。海辺のコースだけでは経済効果が限定的になるのでスタート地点は市内中心部にしよう…。小倉氏がそんな構想を練っているとき、「野球を通じて銚子を盛り上げたい」との思いで地元に戻ってきた元プロ野球選手・木樽正明氏と出会い意気投合した。

元プロ野球選手・木樽さんとの出会いからプロジェクトが始動

木樽氏と会って3日後、廃校となっていた市立銚子西高校を見に行った。「いいグラウンドもあり、スポーツ合宿所として甦らせれば、スポーツを通じた地域活性化の新しい拠点ができるのでは」との思いが湧き、銚子スポーツタウンの企画書の作成に着手。高校時代のラグビー仲間の集まりでたまたま再会した千葉銀行の地方創生部長に作りかけの企画書を見せた。「これだ!」となって、以降、千葉銀行の地方

創生部・法人営業部の担当者も交えて、企画の詳細な検討を進めた。さらに同行を通じて、銚子市の市長・副市長との面談が実現した。



元プロ野球選手・木樽氏(奥)

銚子市、千葉銀行のサポート

銚子市は、当初、複数の中学校を旧銚子西高校に統合する方針であったが、校舎の再利用にあたり、耐震補強工事に多額の費用を要することが判明し、断念。小倉氏から「銚子スポーツタウン」構想の提案があったのはちょうどその頃。議会の理解も得られ、市として公共施設無償貸与等の支援を行うこととなった。以後、スポーツ合宿誘致に関するマーケティング調査やグラウンド設備の改修等の支援が行われている(地方創生加速化交付金を活用)。

銚子市の担当者は、「スポーツ合宿誘致を核とした『スポーツタウン』ブランディング事業であり、その第1弾が銚子スポーツタウン。今後も学校の統廃合が予定されているので、第2、第3の拠点ができれば」と意気込む。

水道工事業の経営者でもある小倉氏は、千葉銀行の支援について、「事業計画の策定段階からグループ全体で支援してもらい感謝しているし、銀行としての熱意を感じた。銀行はお金を貸すだけと思っていたが、イメージが変わった(笑)」



合宿の思い出から銚子のファンづくりを

マーケティング調査の中で、都内には硬式野球に対応したグラウンドが少ないこと、「銚子」の野球のブランド力が高いことが分かった。オールドファンなら、甲子園に春夏通第20回出場し、全国制覇も果たし、木樽氏等名選手を輩出した「銚子商業」を思い出すように、銚子市民の野球への愛着は強い。

「隣の神栖市はサッカーを中心にスポーツ合宿の適地としてブランド化されているので、銚子市は野球を前面に打ち出して行きたい」(銚子市政企画部 垣沼孝一氏)

さらに小倉氏は、「銚子スポーツタウンは、硬式野球の合宿を中心に誘致を図っているが、体育館はバスケットボールやバレーボールでの利用もできるし、文化部の合宿なども含めて幅広い用途で利用していただきたい」

全国各地で観光誘致に力を入れる中、旅行の計画者に銚子を宿泊候補地として挙げてもらうことは容易ではない。「若い時に合宿で銚子に来た方に、銚子を懐かしんでまた観光に来てもらい、水揚げ日本



銚子スポーツタウン全景



左から銚子スポーツタウン 小倉代表取締役、銚子市役所 垣沼市長、千葉銀行 三石副支店長、神谷部長

千葉銀行は、まずグループ企業「ちばぎん総合研究所」と連携してスポーツ合宿に関するマーケティングを行い、当地に対してスポーツ合宿に関するニーズがあることを確認、独自の融資制度である「ちばぎん地方創生融資制度」により設備資金の支援を実行するとともに、地域経済活性化支援機構(REVIC)とともに立ち上げている「広域ちば地域活性化支援ファンド」の活用を通して、REVICからもハンズオン支援を受けられる体制作りを行った。

また、施設の整備とあわせて、備品整備とプロモーション強化を図るためにクラウドファンディングの活用支援も行っている。

一の魚や全国有数の出荷額を誇る農産物など、銚子の名物を味わってほしい。その時は、合宿所ではなく、少し高いホテル・旅館を利用してもらうのもいいので(笑)」(小倉氏)

銚子スポーツタウンから、スポーツを通じた「銚子のファン」づくりの大きな第一歩が始まった。



Data 野球人口は本当に減っている？

「野球人口は減っているのでは?」そんなイメージを持っている人も多いのではないだろうか。グラフは、日本高等学校野球連盟が公表している硬式野球部員数と継続率(高校1年生が3年生になった時に野球を続けている割合)です。部員数は、ピーク時2014年の約17万人から減少していますが、15年前に比べると約1万人増えています。また、継続率は、年々上昇していて、現在は約9割の高校球児が野球を続けているようです。

